

三浦梅園

長崎高等商業學校

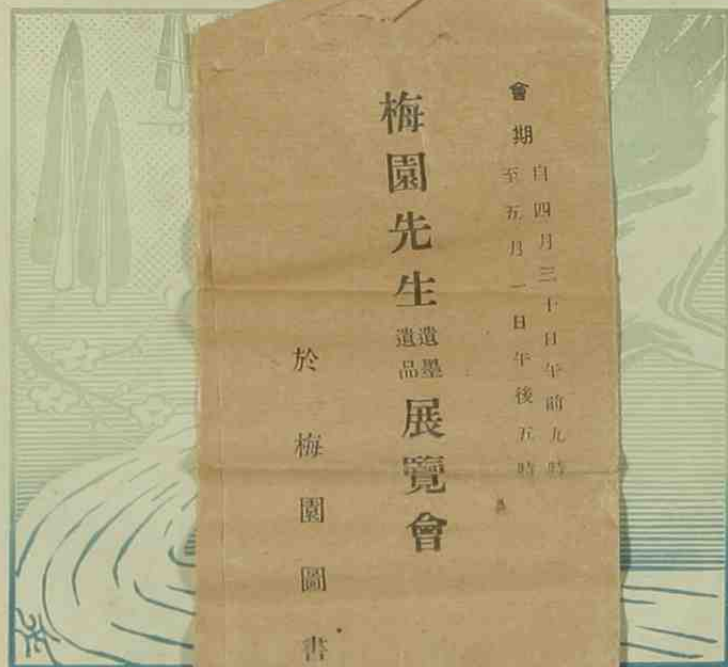
武藤長藏

私宅 長崎市中川町五八

西武蔵野常高
等小學校之印

大正四年七月三十一日發行

梅乃可里



梅園先生遺品展覽會

於梅園圖書館

會期 自四月三十日午前九時
至五月一日午後五時

會

三浦梅園

會期 自四月三十日午前九時
至五月一日午後五時

梅園先生遺墨展覽會

於梅園圖書館

遺墨遺品目録

一、三浦家	二、屏風半雙	三、先生使用ノ字臺十五卷	四、一、行	五、二、行	六、書	七、細字	八、手稿	九、小	一〇、額	一一、二、行	一二、三幅對反觀合一	一三、三幅對反觀合一	一四、一、行	一五、三、行	一六、梅園先生像	一七、聯落四行書	一八、半折細字	一九、一、行	二〇、二、行	二一、二、行	二二、一、行	二三、聯落四行書	二四、對幅	二五、書	二六、草書四行	二七、三、行	二八、一、行	二九、行書四行	三〇、行書一行	三一、二、行	三二、二、行	三三、二、行	三四、小	三五、小	三六、小	三七、二、枚	
1 天球儀	14 書翰	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	
2 硯	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	
3 机	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
4 手刻大黒天	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
5 行燈	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
6 玄語其他遺稿	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
7 刀	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
8 幅物	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
9 樂器亭記	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
10 圖	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
11 吉雄幸作先生書翰	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
12 吉雄幸作先生書翰	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
13 オランダ學稽古紙	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
14 書翰	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
15 屏風半雙	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
16 先生使用ノ字臺十五卷	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
17 額	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
18 手稿	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
19 細字	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
20 手稿	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
21 額	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊
22 三幅對反觀合一	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々木自蹊	國東町 佐々																																		

大正四年七月三十一日發行

西武蔵書庫
蔵書印

梅乃あり里



臨時號
梅園頌德講演會

三浦梅園祭並頌德講演會概況

大正四年四月三十日第一回梅園祭並三頌德講演會ヲ行フ左ニ其ノ概況ヲ記ス

梅園祭頌德講演會趣旨

三浦梅園先生ハ不世出ノ鴻儒ニシテ歿後百二十餘年ノ今日其學德益々光輝ヲ放チ明治四十三年本郡教育會ハ頌德會及ヒ墓前祭ヲ舉行シ同四十五年二月二十六日贈位ノ恩典アリ教育會亦本村民ト共ニ頌德碑ヲ建設ス梅園全集ノ發刊梅園文庫ノ設立皆先生ノ懿德ヲ欽慕スルノ衷情ニ出テ遠近都鄙先生ヲ謳歌セサルモノナキニ至ル斯村ニ斯人アリ實ニ村民ノ榮譽トスル所ナリ是ニ於テ乎大正四年二月二十四日本村會ハ滿場一致ヲ以テ毎年四月三十日(先生易簀日)全村民及學校ノ業ヲ休ミ知名ノ士ヲ聘シ學校ニ於テ頌德講演會ヲ開キ梅園祭ヲ舉行センコトヲ決議ス是レ村民及子弟ヲシテ永ク先生ノ德澤ニ浴スルノ恩惠ヲ忘レザルト與ニ風俗人情ノ淳厚ヲ務メ處世ノ要訣志操ノ向上ヲ謀ラシメント欲スルニアリ

開會前記

一、委員囑托

四月二十六日ヲ以テ小野村長ハ左記ノ諸士ニ委員ヲ囑托ス

委員長		小野元次	副委員長	宮本金六
委員		小田原政尾	林恒策	田上淺五郎
三浦	壯	財前文吾	淵上甚策	水元九平
藤原	俊次	植田潤六	植田高代	渡邊重太郎
淵上	勝太郎	野田政吉	古城兩吾	秋吉波治
三浦	末吉	鶴田榮作	植田鉄男	三浦榮二郎
野田	力	友成伊勢松	石川操	矢野要太郎
林金	吾	小野猪次郎	栗林與六	三浦昇
三浦	丹次	三浦吉雄	上原安五郎	井上熊治
溝部	松次	友弘清太郎	矢野文也	古庄甚策
矢野	完四郎	植田長太郎	古庄成	植田説治
淵上	清	林重治	萱島虎吉	龍山圓
竹田	津猛	菅朝起	財前録三郎	井尻重人
堀口	水江	中野榮	後藤直	

二、委員總會

四月二十八日午前九時ヨリ委員會ヲ西武藏小學校ニ開催シ分掌事務ノ協定並ニ善行表彰者

ノ詮衡等ヲ行フ
諸係左ノ如シ

- 一、準備係 (イ) 式場係 (ロ) 墓地及頌德碑附近ノ整理係
- 二、來賓接待係
- 三、講演係
- 四、遺品並書畫展覽係
- 五、餘興係
- 六、宴會係
- 七、庶務係

三、祭式ノ概況

四月三十日朝來天氣晴朗仰ゲハ巍峨タル拜山ハ長ヘニ古聖ノ遺德ヲ仰グカノ如ク潺溪タル變水亦古賢ノ動績ヲ語ルカノ如シ浩蕩タル東風徐ニ菜圃麥田ヲ亘ツテ平和ノ氣天地ニ滿ツ本村小學校講堂ヲ式場ニ奠メ正面ニ梅園先生ノ御肖像ヲ掲ゲ前面ニ神籬ヲ奉置ス號鐘定刻ヲ告グルヤ一同入場委員長ハ齋主ヲ先導シテ着席委員長開式ノ辭ニ次テ修祓獻饌順次祭事ノ進行ニ連レ場内愈々森嚴ヲ加ヘ列スルモノ皆陶然トシテ靈氣ニ酔フ十一時所定ノ祭事ハ遺憾ナク終了ヲ告ゲタリ

式ノ順序左ノ如シ。

午前十時一同着席

次 委員長ノ先導ニヨリ齋主來賓着席

次 一同敬禮

次 委員長開會ノ辞

次 修祓

次 神職招魂詞

次 献饌

次 齋主祭文ヲ奏シ畢テ玉串拜禮

次 委員長祭文舉テ玉串拜禮

次 後裔者玉串拜禮

次 郡長祭詞

次 一同拜禮

次 頌徳唱歌

次 撤饌

次 神職還魂詞

次 委員長閉式ノ辞

次 一同敬禮

次 齋主以下一同退場

以上

來賓

東國東郡長代理郡書記笠置雪治 杵築中學校長野村禮讓 大分盲啞學校長森清

克 大分女子師範學校教諭田倉紋藏 國東實科女學校長小野柄市 郡書記重光

寅治 永松壯三郎 東國東郡南中部町村長 同小學校長

參列員

西武藏尋常高等小學校 朝來尋常高等小學校 安岐尋常高等小學校 國東尋常

高等小學校ノ兒童並ニ村民ノ參拜者千五百名ニ達ス

四、頌徳講演會

午前十一時三十分左ノ順序ニ從ヒ講演會並ニ表彰式ヲ行フ

一、一同着席敬禮

二、開會ノ辞

三、君ガ代合唱二回

四、校長勅語奉讀

五、奉答唱歌合唱一回

六、村長節婦ノ表彰狀ヲ朗讀シ賞品授與
七、講演

午憩

午后一時開會

八、講演

九、餘興

一〇、閉會ノ辞

一一、一同敬禮

以上

齋主以下來賓ノ祭文、祭詞及頌德講演左ノ如シ

附言

餘興トシテ大聲蓄音機、田中眠龍子ノ日露海戰講談アリタリ
此乃神離爾招奉里坐奉留贈從四位梅園三浦翁乃靈前爾齋主神職野田力謹美豆白左久汝翁波世爾雙無支物
知人爾坐世里志賀此乃里爾生禮出坐志々波此上無久辱支幸爾奈毛故最爾此乃郡乃教育乃會人等思比起志豆
與都城乃御前爾御祭仕奉里豆御德乎欽比奉里仰支奉里計禮波翁乃美名波久方乃雲井乃上爾開閉上里豆長支
邊與里從四位天有高位乎爾里給爾里支然禮波又會員等波記念頌德碑乎立梅園全集乎編美梅園文庫乎設
是翁乃學乃力乃廣久多加里志事乎世爾普久知長令米計禮波翁乎仰支奉里稱爾奉留者爾益多久成利行支計里故

爰爾此乃里人乃有志等相謀里此乃四月三十日波志毛翁乃身亡世坐志賀留日奈禮波今日乎吉日止撰比定米
且年並乃御祭仕閉奉留止各毛各毛御前爾參井里集比來豆御食御酒種々乃味都物乎机代爾置支高成志豆次
々爾拜賀美奉里禮比奉里將多翁乃御德乎頌米奉里稱爾奉留狀乎平介久安介久聞食世止白須
如此仕奉留爾依里豆今志世乃中開計行久爾隨比豆人乃心波薄久成里行波惡志久成里行計留乎翁賀現世爾伊
坐志々時乃如御靈在良爾厚久成里善久成里行久可久守里給比幸爾給閉止齋主力山菅乃根乃懸爾爾宣奉長止
久白須

祭詞

維時大正四年四月三十日東國東郡西武藏村長小野元次謹ムテ清酌野羞ノ典ヲ以テ贈從四位三浦
梅園先生ノ靈ヲ祭ル

先生僻陋ノ地ニ生レ天性穎悟夙ニ文學ヲ修メ專ラ躬行ヲ先キニス天地ノ條理ヲ達觀シ人道ノ蘊
奧ヲ究極ス身ハ故山ニ高臥スト雖凡名ハ都鄙ニ喧傳ス心ニ政見ノ懣積スルアルモ敢テ諸侯ノ招
聘ニ應セザルガ如キハ蓋シ時非ニシテ陪臣トナルヲ屑トセザルナリ

然ルニ歿後百餘年ヲ經ルノ日幽德ノ潛光見ハレ最キニ贈位ノ恩典アリ梅園全集ノ發刊梅園文庫
ノ設立頌德碑ノ建設等遠近ノ人士先生ヲ謳歌欽讃スル所トナル先生ノ德亦偉ナリト謂ツベシ
本村會ハ曩ニ滿場一致ノ可決ニ基キ先生ノ易簣セラレタル本日ヲ以テ永久村祭日ト定ム今祭式
設備ノ如キハ不肖元次等ノ怠慢加フルニ山間其物ニ乏シク姐豆ノ禮ヲ缺ク妙カラサルベシ但遠近

名士ノ多數參拜セラル、ナ以テ聊カ英靈ヲ慰スルコ足ラン冀クハ來リ饗ケヨ

茲ニ恭シク贈從四位三浦梅園先生ノ靈ヲ祭ル先生易簣シテ既ニ百二十有餘年學德愈輝キ聖世ノ風教ヲ扶持スルコト甚大ナルモノアリ

明治大帝ハ遇スルニ贈從四位ノ恩命ヲ以テセラル而シテ曩ニ本郡教育會ハ頌德會ヲ興シ碑ヲ建テ其ノ懿德ヲ追慕スルノ誠意ヲ表シ今亦本村會ハ滿場一致本日ヲ以テ毎年墓前祭ヲ行ヒ併テ頌德講演會ヲ開ク議ヲ決セラル世人先生ノ德ヲ慕フノ情夫レ斯ノ如シ如斯ハ是レ皆先生懿德ノ然ラシムル所ニシテ世道人心ノ啓發ニ貢獻スルコト實ニ偉大ナリト謂フヘシ不肖義信又先生ノ高德ヲ欣慕スルコト既ニ久シ會乏チ本郡ニ奉シ感慨更ニ深シ憾ムラクハ本日ノ盛典ニ列スルノ光榮ヲ得サルコトヲ則茲ニ吏僚ヲ派シテ燕辭ヲ捧ケシム尙クハ來リ饗ケヨ

大正四年四月三十日

大分縣東國東郡長從六位勳六等 沖田 義信

茲ニ謹テ贈從四位三浦梅園先生ノ靈ニ告グ

先生ノ歿セラル、ヤ歳ヲ閱スルコト百二十四年其學德ノ世道人心ヲ啓發シ學界ヲ裨益セラル、コト愈々廣大ナリ致シ遂ニ

天聰ニ達シ贈位ノ恩典ニ浴セラル、ニ到ル眞ニ郡民ノ光榮タリ

惟フニ明治四十三年郡民相謀リ本會主催トシテ頌德會ヲ興シ始メテ先生ヲ矜式スルノ誠ヲ表セリ次テ梅園全集ノ發刊梅園文庫ノ設立頌德碑ノ建設アリ共ニ先生ノ懿德ヲ千歳ニ傳ヘ風教ニ資セントスルノ微衷ニ出ツ今又本村ハ毎歲先生ノ易簣日タル本日ヲトシテ梅園祭ヲ設ケ頌德講演會ヲ開催セントシ茲ニ其ノ第一回ヲ開設セラル德澤ノ弘張愈々大ナルヲ信ス

夫レ吾人職ニ何タルヲ問ハス先生ノ遺教ヲ体シ志操ノ向上ニ努メ國家ノ進運ヲ圖リ以テ高德ニ報ヒシ事ヲ期セサルベカラス不肖此ノ盛典ニ際シ明薦ヲ獎シ聊カ燕辭ヲ捧ク尙クハ饗ケヨ

大正四年四月三十日

大分縣東國東郡教育會長 從六位勳六等 沖田 義信

梅園先生頌德會記念號を讀みて

國東實科高等女學校校長 小野 柄市

私は先年梅園先生の御贈位奉告祭と頌德碑除幕式を挙げられた時皆様と此の室で共に御祝し申しましたが從來引續いて本郡教育會員の列に加つてゐます爲今日も亦御案内に預りまして此の盛式に列する事を得ましたのは私の身にござりまして無上の光榮とする所であります。つきまして何か先生の御遺德について一場の話をせよとの事でありますが私の如き淺學不徳のものが先生

の御事蹟について御話するのは先生の御徳を傷くる恐れがありますので幾度か御断り申し上げましたけれども是非にご申されますので此の席を汚し諸君の御静聴を煩すことになつたのであります。梅園先生は大哲學者でしかも大教育家大政治家大經世家の御手腕を有せられてゐましたがその當時廣く天下に其の名の著はれなかつたのはどういふ譯であらうかと思ひますのに當時幕府に於ては獨り朱子學のみが尊重せられて其の他の學説は異學として嚴禁せられてゐましたから先生の創説せられた餘理の學も矢張異學としての禁を受けたのが大原因をして居ることと思ひます次に先生は三浦家の繼嗣であつて他に父母の奉養を委すへき御兄弟がなかつた爲め江戸や京都などに出てゝ其の學説を天下に公にする事の出来なかつたのと小倉有馬其他の藩より禮を厚うして聘せられたのにも應ずることを得なかつたのもうの原因の一つでありませうまた先生は非常に御謙遜なお方で「物言へば唇寒し秋の風」の句を常に座右の銘として決して他の學説を批難して自己の學説を主張する様な事なく平日弟子に向つて天下の大聖たる釋迦や孔夫子もその御存世中は種々の攻撃を受けたが何千年を経た今日に至つて幾億萬の人々に信向せられ尊敬せらるゝ様になつて居るではいか今日この學者が常に他の學説を攻撃批難して自己の學説を誇り徒に功名を得るに汲々たるは甚よろしくない事であるといはれてゐたさうである斯様に御謙遜であつたのもたしかに先生の名の著はれなかつた原因をして居ると思はれます。然るに時勢は次第に變遷しまして明治の維新となり聖徳が四海に普及しまして皇澤が枯骨に迄

+

及ぶ様になりまして各地に埋れて居た忠貞賢哲の士の事蹟が續々調査發表され遂には御贈位の恩典に接する様になりました。我梅園先生の碩學高德も前に述べた様な理由で久しく此の山間に埋れてゐましたが聖代の徳風に薫せられて種々の方面の人の手によつて廣く世上に公にせらるゝ様になりました。また我が郡教育會に於ても深く先生の遺徳を追慕し更に之を後進子弟に仰かしむる爲め去る明治四十三年の秋頌徳講演會を開催し梅園文庫を設立することになりましたが其の御高德は遂に畏くも

天聰に達しまして御贈位の恩典を賜ふことになり愈先生の芳名が天下に普及する様になりましたこれと同時に郡教育會は頌徳碑を建設して先生の御遺徳を萬世に傳ふる事にしました。然るに本村に於ては本日梅園祭を挙げ今後本月本日をも以て村祭日として先生をお祭り申すことに村會一致で決議せられたさうであります。が是實に本村の美譽であつて先生の御遺徳は其の度毎に村民の腦裡に新に浸み渡りまして村内の風儀の改善や教育の進歩や産業の發展上に甚大な効果を收め得ることは信じて疑はない所であります。

先生の嘉言善行は一々數へ挙げ得ない程ありますが其の一二について私の感じた所を述べて見ようと思ひます。

凡物事には一得一失があり其の用ひ方に注意せねばならぬ金は實に天下の寶であるが其の使用の如何によつては身命を失ふに至るものである人參は實に貴重な良藥であるけれども其の用方

を過つときは生命を奪ふことがある。兵法は軍に必要欠くべからざるものではあるが其の用方を誤れば國を亡ぼすに至るものである。國の大臣は國政上なくてはならぬ要職だが其の治め方如何によつては一國を擾乱するに至るものであると教へられてゐるがすべて一村の上に立つ村長さんや一枚を預る校長さんや一級を受持つ訓導の方々は相互に此の言葉を味つて村全体の幸福を増進しました彼の人の子を損はぬ様注意すべきであると思ひます。世評は輕々しく信じてはならぬ宜しく明察すべきであると思ひます。

昔或寺に一人の小僧があつた或日家に歸つて父に和尚様の虐待の甚しいのを訴へていふには「和尚さんは實に酷い恐しい人だ私に頭を剃れと命じましたから剃つてあげましたら剃り方が悪いといつて大う叱りました。又私が雪隠に行きますと何故に雪隠に行くか不屈な奴が責めました。それはかりては無く毎朝味噌汁を煮よといはれますから煮て差上げますと何故こんな物を出すかといぢめられますから最早一日も心棒は出来ません早く行つて御暇を取つて下さい」と如何にも真らしく言ひました。父は我兄の言を聞き忽烈火の如く怒り早速寺に駆け入りまして和尚に面會を求め一々殘酷なる虐待を詰つたが和尚は言を和らげ答ふる様「成程頭を剃るのは上手故剃らせだが居眠りをして此の様に剃り込んだから人の頭を剃るに居眠るものではないといつて聞かせたのである又雪隠は奥と下この二箇所あつて上のは本山の管長様や貴賓の

お見えになつた時用ふるものであるのにあの小僧は何時もうれに行くから其處に行つてはならぬと戒めたことがある。次に味噌汁も毎朝煮る事にしてあるが味噌汁に上等のご並のと二種類あつて上等のは今いつた様な貴人へ差上げるため用意してあるのに何時も並のは用ひずに上等の斗り用ふるからそれはいけないといつたのである」といつた。

我子の言を信じて和尚に理詰をせうと思つて居つた父も和尚の言を聞いて非常に赤面して歸つて我子の不心得を責めたといふことである。

世上には一犬虚を報じて萬犬之に和するといふ類が多いから凡ての物事は或者が稱賛したからとて直に之を善と早合点をしたり或者の批難するのを聞いて直に之を惡として攻撃するのは宜しくない十分に其事を考察した上で善惡の批判を下さねはならぬといふことを示されたものでありませう。これは學校と家庭の聯絡上必要なきことと思ひます此の學校の生徒には前の小僧の様な不正直な者は一人もありませんが此の後斯様な伴りを傳ふるものがないとも限りません若萬一にも學校で先生が戒めた事を先生が無理でもした様に父兄に告げる事があつた場合に直に其の言を信じ學校に参りまして其の實否を正さず其の子供の面前で學校の方針なり先生の聯方なりをさんぐに攻撃する様な事があつてはなりません斯様になつて來ると先生の信用が子供の伴りの爲に地に墜ちて仕舞ふばかりではない教育の効果は兒童が先生を信頼する程度によつて律せらるゝものでありますから爲に學校教育の退歩を來す様になりますものですから

十分に御注意を願ひたいものです又昇校の途中にて道草をとつて遅刻した生徒が先生の前で朝の御飯が遅かつたのだとか先生より命ぜられた宿題を遊んで居てせなかつたのを來客があつて忙しかつた様に胡麻化す様なことは何處の學校でも折々見當る事でありますがこれは正直を尋常の一年生等にはないが虚言で成功した上級では段々誠らしく先生を伴り親を欺く様になりま

すから常々學校と家庭とは相連絡して兒童が中間で斯る不正手段を行ふ餘裕のない様にし學校の主義も家庭の方針も互に知り合ふといふ事が兒童の躰方には最必要だと思ひます。

次に先生は教への本は誠にあり人の見る見らぬによつて其の行を二にしてはならぬと仰せられてありますしてこれを草木にたとへまして

「奥山に生ずる蘭は非常に香が芳しいといつて世人に賞玩せられ紅葉は大う綺麗だと賞められ山櫻は非常に潔白だと愛せられますが此の蘭や紅葉や櫻が若しも人の來ない時は立派な香を放たず美しい色を表はさなかつたならばとても世人に愛賞される事はあるまい訪ふ人の有無に拘らず時來れば芳しき香を放ち燃ゆるか如き色白雪の如き艶を出す處に蘭紅葉山櫻の價値は認められるのである」といはれてゐますが實にこの通りで如何なる職業に従事する人でも徒に人の見る所ばかりで働く様な風をして本心から其事に盡す精神がなければ決して成功するものではありません。

又學生の爲に色々な教訓がお示しになつてゐますが其の中に

「學問は置所に注意せよ臍の下善し鼻の先惡し」といふ事があるが今日の學生はどうでありませう中學校を卒業したり女學校を卒業したりしますごろれが鼻の先に斗り出て御心のないほど高慢するではありませんか「實る程頭は下の稻穂かな」と右の御示しになつたお言葉とは全く同意味で學問する人の座右の銘とすべき金言だと思ひます。

又先生の塾則の中に杖さういふことがある先生は塾生に教授するに決して鞭を以て戒めたことはいさうでありませうそれは鞭は牛馬を役す具であると言ふ意味から之を人間に加ふるのにはよろしくないといふ處迄も學生の人格を尊重したのでありませう然るに鞭が全くないかと言ふにさうではありませう只一本の鞭は備へてありませうして其の使ひ方が實に感心ではありませうかられば塾生中若しも塾則を守らずして不勉強だとか婦人に戯るゝとかいふ様な不品行者があつた其當人の机の上に鞭を置く事にしましたこれが其の人の不行跡を鞭を加へて戒めることを意味したので更に其の乱行を改めぬ時は處分することにされたさうですこれは教師の大に味ふべき点だと思ひます又村内には色々な申合規約があり各區にも夫々申合せがある事と思ひますが本村に於ては其の規約なり申し合せなりがよく實行されてゐませうか或村では組の寄合とか青年會の會合なりに遅刻したもの欠席した者には罰金を出さする事があるさうですが此等はこの先生の鞭の教へを聞いたなら慚死するに値すると思ひます。かゝる制裁を設けてあるにも拘らず欠席者が多くて其の實行さへ出來ぬと來ましては誠に沙汰の限りだと思ひます。

又先生は他の長所を採つて己の短所を補はしむる爲に多數の塾生中より其の長所を採つて一の理想の人則君子を定められたるして其の君子は義理を重んずることは甲某の様だ勉學する事は乙某の様だ人に憐憫を加へ施與を好む事は丙某の様だ云々といつて多くの塾生にも之に見倣はせ先生御自身も之に倣つて修養を積まれたさうですが之は人の上に立つ者の常に心得ねばならぬ事と思ひます多くの人を採用する上に於て人の短所斗り探したならば天下人多しといへど遂に用ふべき人を見出す事は出来すまい之に反して人の長所を認めて之を信用すれば部下の者は喜んで其の人の爲に精勵する様になりませう。又他人の長を採つて我が短を補ふといふことは吾人の修養上の大秘訣であるばかりでなく何事をなすにも之に越した良策はないと思ひます例へば農家の人々に於ても他家の田畑の見事に出来て居るのを見ては之に倣つて自家の耕耘培養を改良し又家庭に於ても他家の兒女の行儀作法の正しきを見て其の家訓に見倣ふとか他の區の折合の圓滿なのを見て自己の區の不折合を直すといふ様にしたならば一家一郷の風儀の改善も一村の産業の發達も期して待つべきであると思ひます。

先生が大政治家大經世家であつた事は先生が梓築藩主の御諮問に對して上つた丙午封事を以て同藩主が左右の銘とせられた一事でも証明することが出来ませう。又先生が御自身に楠や杉などを植ゑられた事によつても別りませう近來やれ村の基本林だのやれ學校基本林だのやれ何々紀念林だのと續々殖林する様になつてゐますが本村が他の町村に率先してその殖林を實行して

居られるのは當局の獎勵の行届いた爲でもありませうが先生のお植ゑになつて現に青々と繁つてゐる彼の老杉が不言の獎勵をしてゐるので村民が之に刺戟せられた結果に大原因があると思ひます。

先生の御遺徳や御教で摸範とすへきは數限りはありませんが私の如き者があまり長く下らぬ事を述べましては却つて先生の御徳を傷けることにありますからこれでやめることにします兎に角先生の御祭をして講演會を開かれることは誠に美舉ではありますすが單に聞いたばかりで之を實行に現はさないご折角の御催しも水泡に歸する譯でありますから一言でも一行でも先生の御遺徳に倣つて本村の風儀の改善なり教育の進歩なり産業の發展なりに盡して年一年と向上せられんことを希望して止まぬのであります。

梅園先生を敬慕して

大分縣女子師範學校教諭 田 倉 紋 藏 氏 講 演

私は今より七年前に當縣に職を奉じたものでございますが丁度其年明治四十二年に縣教育會の事業として二宮尊徳翁の盛なる報徳會が催されました。其時に梅園先生のお作りになつた天球儀が出品されて居りまして始めて拜見しました。豊後聖人としてかねて梅園先生の名を聞いて居りましたが今更のあたり先生の製作になつた天球儀を拜見して實にその緻密なる事に驚き